

# 顎機能分析学

責任者名：飯沼 利光

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

## ◆担当教員

飯沼 利光(歯科補綴学Ⅰ 教授)

岩田 幸一(生理学 特任教授)

月村 直樹(歯科補綴学Ⅱ 准教授)

篠崎 貴弘(口腔内科学 専任講師)

## ◆一般目標 (GIO)

正常な顎機能のあり方とその基本的な診査・診断方法を修得するために、生体における下顎運動とその記録・分析方法の基本を理解する。臨床では、本教科と顎機能の分析演習および顎機能治療学とが相互に関連しており、3教科で構築した理論に則り顎機能に対する診査・診断ならびに治療が行われていることを理解する。

## ◆到達目標 (SBOs)

- ・唾液分泌能検査の必要性を説明できる。
- ・咀嚼機能検査の概略を説明できる。
- ・咬合異常による障害と咀嚼障害の原因、検査、診断を説明できる。
- ・摂食嚥下障害の原因、検査、診断を説明できる。
- ・言語障害の原因、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ・味覚障害の原因、検査、診断を説明できる。
- ・睡眠時無呼吸の原因、検査、診断及び治療方針を説明できる。
- ・正常咬合の概念を説明できる。

## ◆評価方法

定期試験(70%) および平常試験(30%) にて評価する。

平常試験は、12月9日(土曜日) 11時から行う。

平常試験については試験終了後解説を行うので、講義内容に対する理解度を確認し、知識の習熟を図ること。

## ◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
飯沼 利光	金曜日 18:00~19:00 歯科補綴学第Ⅰ講座医局	iinuma.toshimitsu@nihon-u.ac.jp	
月村 直樹	火曜日 18:00~19:00 歯科補綴学第Ⅱ講座医局	tsukimura.naoki@nihon-u.ac.jp	
高津 匡樹	月曜日 18:00~19:00 口腔診断科医局	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp	

篠崎 貴弘			

#### ◆授業の方法

顎機能の分析に必要な基本的知識に加えて、分析対象となる患者の口腔機能の改善がもたらす影響について、臨床の現場で活用されている知識・技能に加えて、最新の研究情報等について視覚的素材を用いながら講義する。さらに、平常試験においては、行われた講義に対する理解度の確認を客観的試験で行う。

#### 【実務経験】

飯沼利光：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

月村直樹：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

篠崎貴弘：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院での経験等の話を交えながら、歯科臨床現場における本教科で学ぶ歯科診療理論や手技がいかに活用されるかについて学ぶ場を提供したい。

岩田幸一：日本を代表する、臨床生理学における基礎研究の第一人者としての幅広い見識に基づき、本教科で学ぶ内容についてこれまで行われてきた臨床研究や、その成果がいかに活用されているかを学ぶ場の提供をしたい。

#### ◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
参考書	顎機能異常と咬合	藍 稔	医師薬出版	1999
参考書	臨床咬合学事典	長谷川成男、坂東永一	医師薬出版	1997
PDF 資料	授業に用いたパワーポイント資料 (PDF)			

#### ◆DP・CP

コンピテンス 4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンス：4-3、4-4、4-5、4-6、4-10

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

#### ◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に参考書および Web に添付された PDF 資料を用い講義項目に対する予習をして授業に臨むこと。  
さらに、行われた講義での学習項目について参考書に加え、添付された PDF 資料を参考に学修到達度を高めること。

#### ◆準備学習時間

予習：講義で話される内容を十分理解するため、参考書等で講義項目に対する内容を講義相当時間予備学習し授業に臨むこと。

復習：講義で示された項目および内容について理解度をより一層深めるため、参考書および添付された PDF 資料等をもとに授業相当時間振り返り学習を行うこと。

#### ◆全学年を通しての関連教科

- 口腔生理学（第 2 学年・後期）
- 口腔組織学（第 2 学年・後期）
- 口腔衛生学（第 3 学年・前期）
- 歯冠補綴学（第 3 学年・後期）
- 咬合学概論（第 3 学年・後期）
- 架橋義歯補綴学（第 4 学年・前期）
- 部分床義歯補綴学 I（第 4 学年・前期）
- 顎機能分析演習（第 4 学年・後期）
- 総義歯補綴学 II（第 4 学年・後期）
- 口腔内科学・有病者歯科学（第 4 学年・後期）
- 顎機能治療学（第 4 学年・後期）

#### ◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.11	5	1. 咀嚼と嚥下の生理的な制御機構	・顎反射のうち開口反射，下顎張反射，歯根膜咀嚼筋反射など，神経嚥下反射神経機構とメカニズムおよびその役割が説明できる。	岩田 幸一	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害
2		9.25	5	2. 下顎運動と下顎位の基準平面・基準点	・下顎運動および下顎位を表示する矢状面，水平面，フランクフルト平面，カンペル平面などの顎機能分析に必要な基準平面を列挙できる。 ・基準平面を構成している顆頭点，眼窩下点，耳珠上縁点，鼻翼下縁点，任意顆頭点などの基準点を列挙できる。	飯沼 利光	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
3		10.2	5	3. 基本的な下顎	・種々な限界運動をポッセルトの図	月村 直樹	E-2-2) 口腔領

				運動と下顎位	形で学び、その図形と滑走運動の意義を関連づけて説明できる。 ・限界運動、習慣的開閉運動、咀嚼運動などと関連づけて下顎安静位、咬頭嵌合位、筋肉位などの下顎位を説明できる。		域の構造と機能
4		10.9	5	4. 筋機能検査	・筋電図法による筋機能検査について学び、リズム、積分、パワースペクトルなどの分析法を説明できる。 ・筋放電活動と筋電図、咬合力、顎顔面形態、咀嚼能力などとの関係、および顎筋の協調性について説明できる。	飯沼 利光	E-1-1) 診察の基本
5		10.16	5	5. 唾液・味覚検査	・唾液分泌量減少に伴うリスク、緩衝能などの唾液の役割を理解した上で、唾液の量や性状の検査、異常があった場合の治療法を列挙できる。 ・味覚の伝達様式、全口腔法などの検査法と目的、障害および異常を来す疾患、障害および異常への対処法を説明できる。	飯沼 利光	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害
6		10.23	5	6. 睡眠時無呼吸障害 I	・睡眠について理解し、睡眠時無呼吸が生じる原因とその症状を学び、診断法を列挙できる。	飯沼 利光	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害
7		10.30	5	6. 睡眠時無呼吸障害 II	・睡眠について理解し、睡眠時無呼吸が生じる原因とその症状を学び、診断法を列挙できる。 ・睡眠時無呼吸障害による種々の損失について具体的に述べることができる。 ・睡眠時無呼吸障害と全身疾患との関係性を説明できる。 ・睡眠時無呼吸障害の内科的、外科的および歯科的治療法を列挙できる。	飯沼 利光	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害

8		11.6	5	7. 口臭の検査と管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口臭に生理的口臭，飲食物による口臭，病的口臭，仮性口臭症などがあることを学び，その原因について説明できる。</li> <li>・口臭に対する舌苔の除去，生活・食習慣の改善，カウンセリングなどの予防と治療法について説明できる。</li> <li>・口臭の官能検査，ガスセンサによるなどの検査法，測定法を説明できる。</li> </ul>	篠崎 貴弘	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害
9		11.13	5	8. 構音機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学的原因がない，麻痺性の原因による，器質性の原因による構音機能障害の発症について理解し，パラトグラムおよび語音明瞭度試験などによる障害の検査法を説明できる。</li> </ul>	飯沼 利光	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害
10		11.20	5	9. 鼻咽腔閉鎖機能検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先天的あるいは後天的な鼻咽腔閉鎖不全が構音など多くの機能を障害することを理解し，その検査法と治療を列挙できる。</li> </ul>	飯沼 利光	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
11		11.27	5	10. 嚥下機能・舌運動検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼に続く嚥下機能の実態を理解し，反復唾液飲みテストなどの検査法と評価について説明ができる。</li> <li>・嚥下機能障害が招く問題を列挙できる。</li> <li>・咀嚼および嚥下における舌の役割を理解し，舌の運動機能が障害されることにより生じる問題と舌圧測定などによる舌機能の検査法を説明できる。</li> <li>・第9~12回の理解度をチェックす</li> </ul>	飯沼 利光	E-2-2) 口腔領域の構造と機能

					る。		
12		12.9	3	「平常試験」	・第1回～11回まで行われた内容について理解度をチェックする。 会場は131, 132 講義室	飯沼 利光	
13		12.11	5	11. 全身と咬合の関係 －スポーツ歯科学 総論－	・スポーツ歯科学がどのようなものかを全般的に理解し、スポーツ歯科学の観点から、咬合が全身に及ぼす影響、咬みしめの必要性について説明できる。	月村 直樹	E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患
14		12.18	5	11. 全身と咬合の関係 －スポーツ歯科学 総論－	・マウスガードについて知り、スプリントおよびナイトガードなどとの違いについて説明できる。 ・カスタムメイドマウスガードの製作法を説明できる。 ・スポーツ歯科における運動選手へのアプローチを理解し説明できる。	月村 直樹	E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患
15		1.6	5	12. 顎機能分析と咬合器 「平常試験」の解説	・顎機能分析に必要な咬合器の機能について具体的に述べることができる。 ・平常試験の解説を行う。	飯沼 利光	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害

